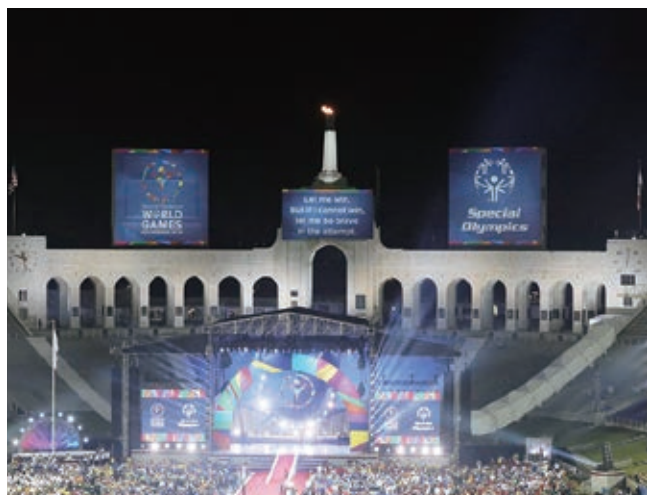


スポーツを通じ、知的障害のある人たちの社会参加を応援！ スペシャルオリンピックス



世界169か国で活動されている国際的スポーツ組織

スペシャルオリンピックス(以下、SO)は、知的障害のある人たちにさまざまなスポーツトレーニングとその成果の発表の場である大会を、年間を通じて提供している国際的なスポーツ組織です。SOの活動は世界169か国で行われており、日本では現在47都道府県すべてにある地区組織で、約8000人のアスリートと1万1000人以上のボランティアが活動に参加しています。

競技能力に関係なく誰でも参加できる

「オリンピック」という言葉が入っている、競技能力の高い選手の活動と思われる方がいますが、スポーツをしたい人は競技能力に関係なく誰でも参加できるのがSOの特徴の一つです。

SOの大会では、同じ競技能力で競い合うことができるよう「ディビジョニング」と呼ばれるグループ分けが行われるため、誰でも競い合うチャンスがあり、自分の力を発揮することができます。

SOが最も大切にしている活動は、各都道府県で行われるスポーツトレーニングです。アスリートの住む地域で、ボランティアがコーチなどを務め、アスリートとスポーツを楽しむことがプログラムの基本方針です。



神奈川・横浜でも活動中 認定 NPO 法人スペシャルオリンピックス日本・神奈川

神奈川県では「認定 NPO 法人スペシャルオリンピックス日本・神奈川」が、県下36会場でオリンピック種目に準ずる13競技のトレーニングを行っており、横浜市では陸上競技(港北区)、水泳競技(中区)、バスケットボール(中区・旭区・栄区)、テニス(青葉区・栄区)、卓球(金沢区)、スケート(神奈川区)、サッカー(港南区)、柔道(港北区)と、8競技11会場で活動を行っています。

認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・神奈川では、一緒に楽しんでスポーツができるボランティアも募集しています。そのためにもまずは一度、活動をご覧ください!! ボランティア募集、活動紹介等詳細につきましては、お気軽にお問い合わせ下さい。

問合せ 認定 NPO 法人スペシャルオリンピックス日本・神奈川

TEL 045-650-5216 (平日 10:30~17:00) URL <http://www.son-kanagawa.com/>



取材・文・写真●吉山博之(公益財団法人横浜市体育協会)/協力・写真提供●公益財団法人スペシャルオリンピックス日本



私たちにとって、
地域社会は
かけがえのない
パートナーです。

Coca-Cola East Japan

コカ・コーライーストジャパン株式会社

<http://www.ccej.co.jp>

Coca-Colaとコカ・コーラは、The Coca-Cola Companyの登録商標です。



公益財団法人スペシャルオリンピックス日本

有森 裕子 理事長

特別インタビュー

インタビュアー えのきどりょう

「出来ること、やりますよ」「って
お受けしたのがきっかけです」

——有森さんがスペシャルオリンピックス
に関わるようになったいきさつは？

有森 2002年に当時の理事長の細川佳代子さんから「ちょっと手伝ってほしい」とお誘いをいただいて。最初はドリームサポーターという立場でした。私は当たり前のようにスポーツをやってきましたけれど、知的障害のある人たちがスポーツをするチャンスが少

ないことにびっくりして「出来ること、やりますよ」ってお受けしたのがきっかけですね。

——ドリームサポーターから現在は理事長というすぐく主体的に関わることになりましたね。

有森 主体的にはなってますけれど、自分の出来ることを、というスタンスは変えようがないので。私がスペシャルオリンピックスに対して持っているモチベーションというのは全然変わってないかなと思っています。私は母が養護施設で働くための学校の事務をやっていたこともあって、親からも「障害じゃなくて、

違いがある、不便さがある。不便がある人には不便がない人が助けてあげるのが当たり前」「子どもに大人が手を貸すのと一緒。お年寄りに若者が手を貸すのと一緒」って教えられてきたので、なにか特別なことをやるっていう感覚はなかったのかもしれないね。

——出来ることを出来る範囲で出来る限り、というスタンスでいらっしゃるのは正しいですね。

有森 無理していると、双方が苦しくなっちゃうんです。そうすると継続しませんから。——それ深いですね。ホントにそうですよね。

有森 「出来ることはやりますよ」というスタンスで、まずはいろいろな現場に行かせていただいて、初めてアイルランドに世界大会を応援に行ったんです。スペシャルオリンピックスのバスケットボール日本チームの試合を全部応援したんです。決勝で負けてしまったんですが、負けた悔しさとか、勝った相手に対してリスペクトの握手を求めて行く姿など、私が経験してきたスポーツの現場と同じような選手の表情、表現があつて。その時、私たちがやっぱり同じなんだって強く思ったんです。

——スポーツの本質ですね。

有森 私自身はスポーツで自分自身に変化を起こしてきました。人間が、変化するための手段を日常的に味わえてないということ

は、つまり変化を起こせないでいるということとです。私がスポーツを通して感じてきたことを同じように感じてほしいと思っています。
**強く生きていくきっかけを
作る活動でありたい**

——僕は長野(2005年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・長野)の時に現場取材しているんですよ。本気で悔しがると、熱い。それまで障害者スポーツをやったり僕も色眼鏡で見ていたんだと思うんだけど……「これスポーツだな」と思いました。



PROFILE プロフィール

有森 裕子(ありもり ゆうこ)さん

元プロマラソン選手。1966年12月17日生まれ。岡山県岡山市出身。日本体育大学卒業後、株式会社リクルート入社。オリンピックは女子マラソンに2回出場、1992年バルセロナで銀メダル、1996年アトランタで銅メダルと二大会連続の五輪メダル獲得という日本女子陸上選手として初の快挙を成し遂げる。2007年2月の東京マラソンを最後にプロランナーとしての競技生活から退く。

国際オリンピック委員会(IOC)スポーツと活動的社会委員会委員。厚生労働省いきいき健康大使、日本プロサッカーリーグ理事。その他これまでに国際陸連(IAAF)女性委員会委員、日本陸上競技連盟理事、国連人口基金親善大使、笹川スポーツ財団評議員、社会貢献支援財団評議員等の要職歴任。

2002年から関わっている公益財団法人スペシャルオリンピックス日本において、2008年から理事長に就任、現在に至る。

有森 「スポーツをするチャンスが少ないアスリートたちに何かしてあげなきゃ」と呼びかけてきた時期もありましたが、競技ができればいいとか、楽しければいいっていうことじゃない。最終的に自分たちで生きていかなければいけないし、強く生きていくきっかけを作る活動でありたいと思っています。それは障害がある人もない人もみんな一緒なんです。スポーツを通してチャンスを作っていく活動にしていきたいですね。

——スポーツを通して人生が変わっていくような、そんなきっかけになる。力入るし、



負けたら悔しいし、勝ちたくなるし。人の眼差しを受けて選手も育ったり、場がつくっていくものがありますからね。

有森

競技レベルだけを見ても「すごい」と

は思ってはもらえないでしょう。でも、それでも「何で彼らはあんなにもやってるんだろう」とか、「何であんなに一生懸命最後までゴールをしようとするんだろう」とか…そういうところに絶対に何か感じるものがあるはずなんです。そういうことをちょっとでも感じる場であってほしいんです。目を見張るようなスーパープレーを魅せるということではないけれど、必死になってゴールして、ワーツとなつて「出来たー！」ってなるのはスペシャルオリンピックスのアスリートたちにとってのスーパ

ープレーなんです。必死になってゴールして、感動して、喜んで次なる力にしようとするアスリートの姿が「もつといろんなことが、もつとすごいスーパープレーがあなたはできるのに、やらないの？」っていう投げかけになるわけです。必死に自分が生きている姿を見せること。スペシャルオリンピックスのアスリートたちは必死になつて。自分たちで最大に喜んで。やり切った姿を見せて。それを見て私たちが、「あれ？自分たちはどうなんだろう？」って気づいていく。社会に生きているすべての人たちに、そんなふうにチャンスを作っていくスペシャルオリンピックスでありたいですね。



取材を終えて

有森裕子さんは戦後日本が生んだヒーローだと思う。それは単にバルセロナ五輪の銀、アトランタ五輪の銅という結果で語られるものじゃない。

僕らはその走る姿に、目を奪われた。本当に頑張って頑張って、自分のつくり上げたものを総動員して戦う女性がそこにいた。感動的に美しかった。多くの人が「けんめいに働く自分」のようなものを有森さんに重ねあわせた。

「自分を信じる」という思念のありようがそのとき、共感をもって受け入れられた。それは大きな「肯定」の力だった。流行語にもなった「初めて自分で自分をほめたいと思います」(アトランタ五輪、競技後のインタビュー)は人々の心の深部まで届いた。

その有森さんがスペシャルオリンピックス日本の理事長さんとして、また「肯定」する力を発信してくれる。スポーツにはポジティブな本質がある。僕らは彼女を通じ、何度もそれを思い出すだろう。【えのきといちろう】





スペシャルオリンピックス日本 ユニファイドスケートイベント 「PLAY UNIFIED!」 横浜銀行アイスアリーナで開催

2017年スペシャルオリンピックス
冬季世界大会・オーストリア 壮行会を
同時開催

スペシャルオリンピックスの活動を伝えるとともに、「ユニファイドスポーツ」を広く周知するイベント「PLAY UNIFIED!」が、平成29年1月29日(日)、横浜銀行アイスアリーナで開催されました。

「ユニファイドスポーツ」は、知的障害のある人たちと健常者が一緒になって練習や試合をすることでスポーツを楽しむという取り組みです。

スペシャルオリンピックス日本(以下、SON)として初となる今回のスケートイベントには、SONドリムサポーターで、プロフィギュアスケーターの安藤美姫さんや元フィギュアスケート選手の小塚崇彦さんをはじめとするゲストの方々が参加し、事前応募などで集まった約400人の観衆を前にSON神奈川とSON



東京に所属するアスリートが、フィギュアスケートとショートトラックスピードスケートの練習プログラムを公開しました。

プログラムの最後には、3月18日(土)に開催される「2017年スペシャルオリンピックス冬季世界大会・オーストリア」に参加する日本選手団のうち、SON神奈川とSON東京のアスリート7名の壮行会が行われ、観客を前に世界大会での健闘を誓いました。

井土ヶ谷に空き家活用 地域交流拠点が誕生

住宅リフォームや太陽光発電システム販売を行う株式会社太陽住建(河原勇輝社長)は、これまで横浜銀行アイスアリーナの屋根を借りて太陽光発電を設置し、その売電収益の一部から東日本大震災の被災児童を招いたキャンプを行うなど地域貢献活動に力を入れ、「横浜型地域貢献企業」の最上位認定を受けています。

このたび株式会社太陽住建が建物を所有する横浜市住宅供給公社と連携し井土ヶ谷下町に平成29年1月30日、地域住民の交流拠点機能を備えた「井土ヶ谷アーバンデザインセンター」をオープンしました。

同施設では今後、街づくりに関わる人がイベントや街の未来を語り合う講座や講演を開くほか、音楽・スポーツイベントなどを行う交流拠点として運営されていきます。会場使用料は原則無償となっておりますので、ご利用を希望される方はお問い合わせください。



会場使用に関する予約・問合せ

井土ヶ谷アーバンデザインセンター事務局(株式会社太陽住建 内)

フリーダイヤル 0120-460-025 (遠藤・秋山まで)